

ホットライン

2010年

## 第1回 日米露三極有識者会合

日時：2010年3月29-30日

場所：戦略国際問題研究所（ワシントンDC）

主催：日本 日本国際問題研究所（JIIA）

アメリカ 戦略国際問題研究所（CSIS）

ロシア 世界経済国際関係研究所（IMEMO）

## 参加者

### (1) 日本側参加者

- ・ 野上義二 日本国際問題研究所理事長
- ・ 伊藤庄一 米戦略国際問題研究所客員研究員
- ・ 岩下明裕 北海道大学スラブ研究センター長
- ・ 梅本哲也 静岡県立大学教授
- ・ 金田秀昭 日本国際問題研究所客員研究員
- ・ 下斗米伸夫 法政大学教授
- ・ 高原明生 東京大学教授
- ・ 西原正 平和・安全保障研究所理事長
- ・ 横川和穂 日本国際問題研究所研究員

### (2) アメリカ側参加者

- ・ John Hamre CSIS 所長
- ・ Ed Chow CSIS 上級研究員
- ・ Bonnie Glaser CSIS 上級研究員
- ・ Michael Green CSIS 上級顧問
- ・ Douglas Hengel 米國務省次官補代理
- ・ Andrew Kuchins CSIS 欧州・ユーラシア部長
- ・ Michael McDevitt 新アメリカ安全保障研究所 (CNAS) 副所長
- ・ Sharon Squassoni CSIS 不拡散プログラム長兼上級研究員
- ・ Michael Swaine カーネギー国際平和財団上級研究員

### (キーノートスピーカー)

- ・ Kurt Campbell 米國務次官補
- ・ Joseph Nye ハーバード大学ケネディ行政大学院名誉教授
- ・ Michael McFaul 大統領特別補佐官、国家安全保障会議 (NSC) ロシア・ヨーロッパ問題担当上級部長

### (3) ロシア側参加者

- ・ Alexander Dynkin IMEMO 所長
- ・ Alexei Arbatov IMEMO 国際安全保障センター長
- ・ George Kunadze IMEMO 主任研究員
- ・ Vasily Mikheev IMEMO 副所長
- ・ Elena Telegina ロシア国立石油ガス大学教授
- ・ Vasily Usoltsev ロシア連邦国家院議員
- ・ Fedor Voitlovsky IMEMO 上級研究員
- ・ Roman Tkachenko Usoltsev 国家院議員補佐
- ・ Vladimir Dvorkin 元ロシア国防省第四中央研究所長

日本国際問題研究所は、アメリカ戦略国際問題研究所（CSIS）およびロシア世界経済国際関係研究所（IMEMO）との共催で、2010年3月29-30日の2日間にわたり、第1回日米露三極有識者会合を開催した。同会合においては、日米露各国の有識者が一堂に会し、「北東アジアにおける安全保障の課題」というテーマの下、3つのセッションを設けて議論が行われた。またセッションの合間のランチやディナーの席においても、キーノート・スピーチとして著名なスピーカー3名による講演が行われた。

なお、本会合は非公開との前提で行われたものであり、議論の詳細に立ち入ることができないため、本報告書も会合の概略を述べるに留めることをお許し願いたい。

会議の冒頭において、日米露各国の代表としてハムレ CSIS 所長、ディンキン IMEMO 所長、野上 JIIA 理事長が挨拶を述べた後、カート・キャンベル米 국무次官補（東アジア・太平洋地域担当）が「北東アジアの新たなダイナミズム」というタイトルでキーノート・スピーチを行った。

その後の第1セッションでは、「北東アジアにおける通常戦力バランスの変化とその安全保障上の脅威」というテーマの下、中国の台頭による北東アジア地域の通常戦力バランスの変化と、それに関連する安全保障スキームのあり方の課題、日米露の協力の可能性などについて議論が展開された。

29日夜にハムレ CSIS 所長主催の夕食会があり、その席ではジョセフ・ナイ・ハーバード大学教授が「アメリカン・パワーの将来」と題したキーノート・スピーチを行った。

30日午前には第2セッション「北東アジアにおけるエネルギー安全保障」が行われた。セッションの前半ではロシアからアジア太平洋地域への石油や天然ガスの供給をめぐる問題が議論された。後半では、気候変動との関連で今後成長が期待される原子力に焦点が当てられ、その普及を核の拡散防止と合わせて進める必要があること、この点における日米露の協力の可能性などが話し合われた。

30日のランチの席では、マイケル・マクファウル国家安全保障担当大統領特別補佐官／ロシア・ユーラシア地域担当上級部長による「米露関係のアップデート」と題したキーノート・スピーチがあった。

午後に行われた第3セッション「北東アジアにおける核安全保障」では、北朝鮮の核問題や六か国協議の役割が議題に上がったほか、周辺国の核戦力の展望に関する分析や、アジア太平洋地域と国際的な核削減交渉の流れ、日本におけるアメリカの拡大抑止の信頼性などをめぐって、活発な議論が交わされた。また、一部参加者からは、アジア・太平洋地域の軍事的緊張緩和のあり方に関する具体的な提案も出された。

最後に各国代表による閉会の挨拶があり、第1回会合は終了した。本会合は、アジア太平洋地域における三か国の協力の可能性を探っていくべく、本年より3年をかけて議論を積み重ね、最終的には各国政府への政策提言をまとめる予定である。